INVITATION

Ehime University Hospital ［愛媛大学医学部附属病院広報誌］

VOL 40

2015

温故知新

── 附属病院の新たなる決意 ──

DOCTOR'S VOICE 01　患者さんの幸福を目指し、努力と進化を続ける

DOCTOR'S VOICE 02　原点である「赤ちゃんに優しい医療」を

DOCTOR'S VOICE 03　済生会松山病院院長に聞く

若手医師・看護師と新病院長・看護部長の対談

医療者全員が参加する病院でありたい

新病院長　三浦裕正

地域密着医療と地場産業への展開

当院が目指すのは地域に密着した医療です。様々な寄附講座やサテライトセンター、総合診療サポート センターの設置など、多様な側面から地域に密着した医療の展開をこれからも実践していきます。同時に、学内外の研究組織及び企業との連携体制を構築する「先端 医療創生センター」を中心に研究を進め、研究と臨床の融合、産業への展開を推進します。また、それらを当院の強みとしての情報発信も重要です。

若手の医療従事者に対する教育の推進

吉田　チーム医療の現場では、自分の役割だけで精一杯な状況ですが、自らが行動を起こし、現場での経験を積極的に積みたいです。

髙石　スタッフや患者さんなどたくさんの人と触れ合って、知識はもちろん、人間性や話し方などを身につけて患者さんといい関係を築いていきたいです。

水本　看護の基礎をいつも大事にし、何気ない会話ひとつひとつから、人と人との繋がりを大切にして、信頼される看護師を目指します。

西森　患者さんへの安全で安心なケアや処置を提供し、患者さんだけではなく家族も理想とする退院を実現させたいです。

患者さんの気持ちが理解でき、患者さんの気持ちに寄り添う

研修の時期には様々な科に接することで視野が広がり、チーム医療に対しての理解が深まります。易きな部分に流れず、自ら厳しい道を選択していく姿勢を保ち、高い志を持って患者さんと向き合ってください。20代では自らの視野を広げ、チャレンジ精神を持ち続けるべきです。病院も、私もできるだけのバックアップとサポートを約束します。また、絶えず「なぜ」という探究心を持ち、原因を究明する診療を続けることです。これからも愛媛大学医学部附属病院としてのプライドを持ちながら、患者さんに寄り添う姿勢で医師・看護師として頑張ってください。当院も学内資源の重点化を進め、大胆な改革を続け、若い医療人が伸び伸びと活躍できる場所でありたいと思います。

PROFILE

みうらひろまさ◎長崎県出身、1982年九州大学医学部卒業、医学博士。九州大学医学部准教授などを経て、2010年から整形外科教授。2015年4月から現職。変形性膝関節症に対する人工膝関節置換術を専門として、国内の臨床、基礎研究をリード。2006年から現在まで連続してBest Doctors in Japanに選出。趣味は渓流釣り、読書。

研修医　吉田諭

研修医　髙石彩子

看護師　水本のどか

看護師　西森功

医学部附属病院のここがすごい「周産母子センター」

多様な職種で構成されたチーム医療

小児科学講座教授、副研究科長　石井榮一

周産母子センターは地域の周産期医療、すなわち出生前後の母児に対する医療を担っています。当センターでは妊娠・出生前診断からカウンセリング・分娩・出生後治療までの一貫した医療を提供しています。

周産母子センターでは多様化する周産期医療に応えるため、各分野で専門性を持つスタッフが連携するチーム医療を組織しました。従来のチーム医療は医師・看護師・心理士などで構成されていましたが、現在は臨床心理士や遺伝カウンセラー、保育士、ソーシャルワーカーなど、多様な職種の専門家で構成しています。中でも、遺伝専門医およびカウンセラーによる出生前診断のカウンセリングは重要な役割を果たしています。今後も質の高い医療を提供するため、また医学の視点だけに偏らないため、このチーム医療のシステムを進化させていく予定です。加えて、県内の周産母子センター間のネットワーク化も進めています。これまでは心臓病や皮膚病などの専門の診療が必要な場合は当センターが担い、基礎疾患のない極小未熟児は県立中央病院で診ていました。今後は、更に、その連携を愛媛県規模で推し進めていくことを考えています。既に県立中央病院・県立新居浜病院・県立今治病院の周産母子センターとは連携し、症例の一体化を進めています。当センターでは専門性を持つスタッフの力を引き出したチーム医療と県内病院との連携強化で、地域医療に貢献していきます。

PROFILE

いしいえいいち◎愛媛大学大学院医学系研究科・小児科学教授、1979年九州大学医学部卒業。医学博士。九州大学小児科、トロント小児病院免疫腫瘍科、佐賀大学医学部小児科などを経て当院へ。小児の血液、腫瘍、免疫を専門に活躍。趣味は囲碁、ゴルフ、ドライブ。車好きで優良ドライバー歴20年の実績あり。

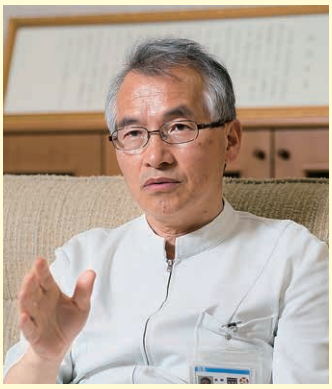
FROM VIP DOCTOR

愛媛大学医学部附属病院に期待すること 『VIP DOCTOR に聞く』

医師としての成長過程における深い学びと広い人脈を期待します

済生会松山病院院長　宮岡弘明

附属病院には、医師の育成にあたって期待していることが二つあります。一つは医師が成長していく上で大切な「物事の考え方」を身につける指導をしてもらうことです。済生会松山病院は研修医にとってコモンディジーズのプライマリケアを学ぶ場所です。プライマリケアの基礎をしっかり身につけることが、その後の臨床医としての自信のきっかけになります。しかし、医師として更に成長するためには「問題解決能力」を習得する必要があります。附属病院ではその「問題解決能力」を得るための「物事の考え方」を学び、深めていただけると思います。このような過程が、長い目で見ると医師が成長する上でとても重要だと思います。済生会松山病院―附属病院、医師が成長する上でのこの結びつきを強化したいと考えています。もう一つは人脈です。自分が困ったときに相談できる人がいることは大きな力です。医師が附属病院で働くと、その間に多くの医師と知り合い、所属を越えた多様な人脈が築けます。そういう人脈形成の場としても、附属病院は大きな役割を持っています。特に、勤務するのは医師として働く中でも比較的若い時期です。その時期に、様々な診療科のある附属病院で働くことで、様々な先輩医師から刺激を受けます。経験値が高く、懐の深い医師を育成する土壌としても期待しています。



PROFILE

みやおかひろあき◎愛媛県内子町出身。1981年鹿児島大学医学部卒業後、愛媛大学医学部第三内科に入局。市立八幡浜総合病院、国立療養所愛媛病院を経て、再び愛媛大学医学部第三内科に戻る。1992年内科医長として済生会松山病院に赴任。2014年から現職。

愛媛大学医学部附属病院 トピックス

お気軽にご相談ください

コンピュータ断層撮影装置の寄贈

平成27年1月16日（金）、愛媛大学と連携協力協定を締結している西予市（市立西予市民病院）から16列検出器型コンピュータ断層撮影装置を寄贈いただいたことに対し、安川医学部長、浅野Aiセンター長が西予市役所及び西予市立西予市民病院を表敬訪問し感謝状の贈呈等を行いました。この導入により診断能と利便性の大幅な向上が期待され、今後も各機関との連携を図りながら死因究明のみならず教育・研究に取り組んでいきます。

総務課　☎089-960-5125

連携病院長会議を開催

当院と125の医療機関が、医師の育成・交流、先進医療、地域医療等の情報交換を目的に平成27年3月7日（土）、第27回愛媛大学医学部連携病院長会議を開催しました。会議では、安川正貴研究科長と三浦裕正副病院長から医学部、附属病院の近況報告の後、松崎淳人課長補佐（厚生労働省）、清野佳紀名誉院長（独立行政法人地域医療機能推進機構大阪病院）、羽藤直人教授（当院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学）から講演があり、交流を深める良い機会となりました。

総務課企画・広報チーム　☎089-960-5943

指導医講習会を開催

当院地域医療支援センターが、地域医療の更なる充実・発展を目的に、南予・東予地区にて平成26年度愛媛県病院指導医講習会及び病院連携記念講演会を開催しました。両地区とも病院、各市町の行政機関等からそれぞれ約40名の参加があり、特別講演等の後、活発な質疑応答が交わされ、地域医療の現状と諸課題等について考える良い機会となりました。今後も地域医療を担う医師の養成を推進していきます。

地域医療支援センター　☎089-960-5990

エイズネットワーク会議を開催

平成27年2月4日（水）、平成26年度エイズ診療ネットワーク会議を開催しました。本会議は、当院が愛媛県からの委託を受け、エイズ診療病院の医療従事者・関係者がエイズ診療に関する情報交換を行い、エイズ診療の充実を図る為に開催しています。会議では、大塚有加先生（愛媛県立衛生研究所）、中西徳彦主任部長（愛媛県立中央病院）等からエイズの届け出状況、診療の現況等について報告がありました。

総務課企画・広報チーム　☎089-960-5943

キャダバートレーニングを開催

キャダバートレーニングとは、実際にご遺体を使用した手技向上トレーニングであり、当院では手術手技研修センターの協力を得て、全国の大学病院に先駆けて実践している研修で、具体的かつ詳細に、実践的なトレーニングを行い、多くの専門医養成に活用されています。今回は研修医が胸腔穿刺・腰椎穿刺の各手技のトレーニングに励みました。今後も研修医自身が自信をもって患者さんへの診療手技が行えるよう、手術手技向上を図るとともに、臨床能力の高い研修医の育成に取り組んでいきます。

編集後記

表紙は附属病院正面玄関を背景に、新人研修医・新人看護師の集合写真を撮影しました。新たな決意を胸に小さな一歩かもしれませんが、大きな価値のある一歩を踏み出しました。これからの将来への期待を込め、温かくも厳しくご指導・ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

さて、本号では4月から附属病院長となった三浦先生、田渕看護部長と、研修医・看護師の対談、周産母子センターの紹介、医学部附属病院に期待することについて済生会松山病院長の宮岡先生からお話を伺っております。

また、皆様の御協力により平成17年から発刊しているINVITATIONもはや10年、40号を迎えることが出来ました。これからも当院の最新情報をお伝えしていきたいと思っておりますので、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

広報委員会委員長　高田清式

◎表紙
病院長　三浦裕正
総合臨床研修センター長　高田清式
看護部長　田渕典子
新人研修医　看護師
— ホスピタルパーク —

愛媛大学医学部附属病院
〒791-0295 愛媛県東温市志津川　☎089-964-5111（代）
ホームページ http://www.hsp.ehime-u.ac.jp/